

バイオマスタウン構想分析DB

[【リンク】門川町バイオマスタウン構想](#)

公表回	公表年月日	構想見直し		都道府県名	市町村名	人口	面積
		公表回	公表年月日			(人)	(km ²)
15	2006.9.28			宮崎県	門川町	19,748	120.48
構想の要約		生ごみを活用した土壌改良材、漁業系残渣を活用した魚餌飼料、廃食用油の開発、利活用を進める。また将来的には、未利用間伐材を利用したペレット燃料化を目指す。					
構想に盛り込まれた事業		①バイオマス変換施設(生ごみ魚残渣) ②BDF変換施設(廃食用油) ③木質燃料変換施設(木質バイオマス)					
バイオマス利活用目標		添付別紙参照					
バイオマスタウン構想概要図		添付別紙参照					

利用するバイオマス						
廃棄物系バイオマス		未利用バイオマス			資源作物	
家畜排せつ物	○	稲わら・もみがらなど	○	資源作物		
農業系廃棄物(廃菌床など)		野菜等非食部				
食品廃棄物	○	間伐材・林地残材				
廃食用油	○	果樹剪定枝	○			
水産加工残さ	○	竹材				
製材工場等残材	○	その他()				
建設発生木材	○					
街路樹・公園・家庭剪定枝、刈草						
古紙・廃棄紙						
下水汚泥など	○					
その他()						

利用するバイオマス変換技術			
マテリアル利用のための変換技術		エネルギー利用のための変換技術	
堆肥化(土壌改良材・肥料を含む)	○	バイオガス化(メタン発酵)	
飼料化	○	直接燃焼	
バイオマスプラスチック製造		ガス化	
その他()		炭化	
		固形燃料化(チップ・ペレット・RDFなど)	○
		バイオディーゼル燃料化	○
		バイオエタノール化	
		その他()	

バイオマスタウン実現に向けた取組の進捗状況	
記入年月日	記事
2010.07.27	農村振興局助成措置:平成19年度、(株)フォレストエナジー門川、樹皮、未利用間伐材、ダム流木等木質ペレット製造施設の整備

実現した事業	添付別紙参照
--------	--------

バイオマス利活用目標
(バイオマスタウン構想書からコピー)

バイオマス	賦存量	変換 ・処理方法	仕向量	利用・販売	利用率 (%)
(廃棄物系バイオマス)					98.7
生ごみ	2,610 t /年	土壌改良材、畜産 飼料化	2,610 t /年	土壌改良材 畜産飼料	100
廃食用油	52 kl /年	BDF化	52 kl /年	燃料	100
家畜排泄物	28,735 t /年		28,735 t /年		100
(プロイラー)	(22,844 t /年)	肥料化	(22,844 t /年)	肥料化	
(肉用牛・養豚)	(5,891 t /年)	浄化处理、堆肥化	(5,891 t /年)	農地還元	
建設廃材 製材廃材	50 t /年	ペレット燃料化	50 t /年	ペレット燃料	100
漁業系	40 t /年	魚餌飼料化	40 t /年	魚餌飼料	100
水産加工系	480 t /年	魚餌飼料化	480 t /年	魚餌飼料	100
浄化槽汚泥	6,049 kl /年	浄化处理	—	—	0
(未利用バイオマス)					52.7
稲わら	900 t /年	飼料化、敷料 農地還元	210 t /年	飼料、敷料	23.3
もみがら	291 t /年	土壌改良材	291 t /年	土壌改良材	100
米ぬか	90 t /年	土壌改良材、畜産 飼料化	90 t /年	土壌改良材 畜産飼料	100
剪定くず	20 t /年	ペレット燃料化	20 t /年	ペレット燃料	100
未利用間伐材 (推計)	657 t /年	ペレット燃料化	460 t /年	ペレット燃料	70

バイオマスタウン構想概要図

(バイオマスタウン構想書からコピー)



実現した事業(その1)

事業の名称	
事業者名	
事業所名	
住所(施設の所在地)	
利用するバイオマス	
利用する変換技術	

事業の概要	添付別紙(パンフレット等)参照
	(事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入)